

第 39 回東北建築賞作品賞選考報告

選考委員長 大沼 正寛

1. 応募作品

- ・小規模建築物部門 7 点
- ・一般建築物部門 16 点
- ・その他の建築物部門 2 点
- 計 25 点

2. 選考経過

(1) 事前打ち合わせ会議 2018 年 9 月 20 日 (木) 14:30 ~ 16:00

於 日本建築学会東北支部会議室

選考委員長の選出、東北建築賞作品賞募集要項、選考委員会規則などを確認した上で、応募作品の数とその内訳を確認した。東北建築作品発表会の運営方法及び東北建築賞作品賞の選考基準などについて事前打ち合わせを行った。

(2) 東北建築作品発表会 2018 年 10 月 6 日 (土) 10:00 ~ 16:00

於 せんだいメディアテーク 7 階スタジオシアター

第 29 回東北建築作品発表会において応募 25 作品の発表が行われた。限られた発表時間の中でそれぞれのコンセプトが紹介され、発表会は全体として滞りなく進められ終了した。時間厳守にご協力いただいた発表者、諸氏に敬意を表したい。

(3) 第 1 次審査会 2018 年 10 月 6 日 (土) 16:15 ~ 16:55

於 せんだいメディアテーク 2 階会議室

東北建築作品発表会終了後、会場を移し、現地審査を行う必要のある作品を選定することを目的として、第 1 次審査を行った。小規模建築物部門、一般建築物部門、その他の建築物部門を別々に選考せず、まとめて投票することになった。全作品の中から一人 5 票以上 8 票以内で投票することとなり、各委員の投票および発表内容を総合的に考慮した結果、小規模建築物部門 2 作品、一般建築物部門 8 作品、その他の建築物部門 2 作品の合計 12 作品を第 1 次審査通過とした。

次に、現地審査は 1 作品につき 2 名以上の選考委員がこれに当たることを確認し、選定された 12 作品について現地審査の分担を決め、現地において確認すべき点を検討し、作品管理者との連絡を含めた現地審査の日程調整は事務局を通して行う事とした。

なお、1 次審査の落選者へは 200 字程度の講評を選考委員分担で作成し、選考委員会として送付することを確認した。

(4) 現地審査

現地審査については 11 月と 12 月に選考委員で分担して現地審査が行われた。

(5) 第 2 次審査 2019 年 2 月 2 日 (土) 13:00 ~ 17:00

於 日本建築学会東北支部会議室

まず、大沼委員長より全体の進め方と評価ポイントの確認があった。その後、1 作品ずつ現地審査担当委員からパワーポイントにより報告を受けた後、現地を確認した担当委員の印象等を確認した。作品についての質疑、審査委員の評価ポイント等についての討議を全審査員で行った。投票および討議の結果、一般建築物部門から作品賞 3 作品と特別賞 1 作品、その他の建築物部門から特別賞 1 作品の計 5 作品を選定する事に決まった。

(6) 選考結果

作品賞 3 作品

◆気仙沼図書館・気仙沼児童センター

- 【施 主】気仙沼市 市長 菅原茂
【所 在 地】宮城県気仙沼市笹が陣3番30号
【設計監理】株式会社 岡田新一設計事務所
構造：株式会社 織本構造設計
設備：株式会社 環境エンジニアリング
ランドスケープデザイン：株式会社 背景計画研究所
【施 工】建築：株式会社 クマケー建設
電気設備：白石電気工事株式会社
機械設備：株式会社 米倉設備工業
外構：株式会社 アスリード

◆学校法人堀内学園幼保連携型認定こども園菜根こども園

- 【施 主】学校法人堀内学園 理事長 堀内恵梨子
【所 在 地】福島県郡山市菜根 1 丁目13-20
【設計監理】意匠：有限会社 辺見美津男設計室
構造：村田龍馬設計所
【施 工】株式会社陰山工務店

◆市立米沢図書館・よねざわ市民ギャラリー「ナセBA」

- 【施 主】米沢市
【所 在 地】山形県米沢市中央一丁目
【設 計】株式会社 山下設計
【工事監理】米沢市
【施 工】建築／金子・網代・白井特定建設工事共同企業体
機械／黒澤・情野特定建設工事共同企業体
電気／東北電工・効ハシ電工特定建設工事共同企業体

「特別賞」 2 作品

◆旭陽電気株式会社宮城工場

- 【施 主】旭陽電気株式会社 代表取締役社長 金山光雄
【所 在 地】宮城県黒川郡大和町大和リサーチパーク
【設計監理】有限会社 NOA環境設計 代表取締役 羽村 弘／羽村 祐毅
構造：有限会社 松本構造設計室 松本 年史
【施 工】建築：株式会社 安藤・間
設備：隼電気株式会社／大成設備株式会社
外装：旭ビルウォール株式会社

◆ふたば富岡社屋／郡山社屋／富岡の蔵

富岡社屋

- 【施主】株式会社ふたば
- 【所在地】福島県双葉郡富岡町
- 【設計監理】株式会社はりゅうウッドスタジオ
構造：エーユーエム構造設計株式会社
設備：株式会社エム設備設計事務所／遠山設備設計
- 【施工】東北工業建設株式会社

郡山社屋

- 【施主】株式会社ふたば
- 【所在地】福島県郡山市
- 【設計監理】株式会社はりゅうウッドスタジオ
構造：エーユーエム構造設計株式会社
- 【施工】株式会社芳賀沼製作

富岡の蔵

- 【施主】遠藤秀文
- 【所在地】福島県双葉郡富岡町
- 【設計監理】株式会社はりゅうウッドスタジオ
- 【施工】はりゅうコンストラクションマネジメント株式会社

(7) 講評

作品賞

【気仙沼図書館・気仙沼児童センター】

施主グループとの協働を重ね、図書館建築のノウハウが存分に発揮された建築といえます。被災地に残された文教の丘にあり、小学校の校庭の延長ともいえる立地であるため、学校帰りの子どもたちの居場所となると同時に、幼児から高齢者まで多世代が集う様々な機能が併設され、それらがしなやかに配置されています。外観シルエットに旧図書館の印象を意識したとするコンセプトは、市民万人に理解されうるか、あるいは重要かどうか、との指摘もありましたが、逆にいえば、建築形態が奇をてらわず、各種面材のテクスチャや色彩計画に力点が置かれていることが、現代的な印象につながっています。市民・地元企業との共創が意図された什器類や、各コーナーにおける光・視環境の工夫など、多世代向けのデザイン、バリアフリー・ユニバーサルデザインが展開されており、当地方の施設建築を一步前進させています。港町にさわやかな風をもたらした秀作として、東北建築賞作品賞に相応しいと評価されました。

【学校法人堀内学園幼保連携型認定こども園菜根こども園】

かつては双葉郡富岡町で営まれていましたが、東日本大震災の原発事故により現地再建が叶わず、郡山市に新たに土地をもとめ、計画された認定こども園です。低層住宅が建ち並ぶL型の不整形敷地に対し、緩やかな扇状プランを配して土地の有効利用を図るとともに、出来るだけ建物高さを低く抑え、みごとに近隣になじませています。内部空間は、丸太と地場産の木材を利用した構造フレームによって規則的な扇状のワンルームを構成しており、それ自体には新規性やデザイン性を認めにくいとの指摘もありましたが、放射状架構の軸線が中心へ向かう内側を前面とし、園庭との連続性を高めた深い軒と広いデッキが魅力的です。雨落ち・縦樋などの巧みな処理、起伏をもたせた外構計画など、周辺への配慮と子どもの視線にあわせたヒューマンスケールな印象が暖かみを感じさせます。浜通り地方の労苦から、当施設に結実するまでの道のり、それらを丹念にまとめあげた計画・設計プロセスを含めて、東北建築賞作品賞に相応しいと評価されました。

【市立米沢図書館・よねざわ市民ギャラリー「ナセBA」】

江戸時代、上杉家が教育に力を注いだ米沢藩の良き伝統を継承しながら、雪国の地方都市のやや寂れた中心街に、新たな生命を吹き込む建築となっています。市人口は10万人に満たないにもかかわらず、本作品が完成するや、たちまち年間の来館者数は30万人を超えるようになったことが、それを証明しています。本作品の一番の魅力は、四方の壁が何層にもわたって書架となり、中心となる吹き抜けの大空間を取り囲んでいる点にあり、東北地方というよりは、まるでヨーロッパの図書館を思わせます。また積層したボリュームの下層は、やや暗さも感じられるものの、市民に開かれたユニバーサルな回廊となっています。こうした空間構成が、周辺環境への調和、積雪荷重の分散といった諸条件に対する試行錯誤から導き出されたことは、設計者の優れた力量はもとより、発注者や利用者である市民の熱意と誇りに基づいていることを実感させます。十分な存在感があり、今後も利用者から愛され、他都市の文化施設にも影響を及ぼすことが期待され、東北建築賞作品賞に相応しいと評価されました。

特別賞

【旭陽電気株式会社宮城工場】

先端技術産業の集積を進める宮城県大和町のリサーチパークに建つ電子部品工場です。県道264号線上のエリア入口に、電子部品工場らしい未来的なファサードを現しており、小規模ながら高いランドマーク性を有しています。インテリアにおいても、機能面のみを満たした工場建築とは異なり、十分な快適性が感じられ、働く人々の誇りと労働環境の改善に資する空間が確保されています。構法技術的な面でも、半透明アクリル製ファサードによる日射遮蔽効果、橋梁用デッキプレート2枚合わせによる屋根架構におけるダクト機能併設と工期短縮効果、精緻な施工など、随所に工夫がみられました。実質的な心臓部となる生産部門は、非公開部分もあり、一定の空間が確保されるに留まった印象もありましたが、それは産業分野の特性ともいえるもので、むしろ生産・管理・憩い・応接の各部門の合理的配置と巧みなディテールが、端正な工場建築の今後のあり方を示唆しています。以上より、東北建築賞特別賞として相応しい作品と評価されました。

【ふたば富岡社屋／郡山社屋／富岡の蔵】

設計者らがこれまで開発してきた「縦ログ構法」の新たな展開を示唆するとともに、フクシマの復興への建築家の関り方を問いかけるプロジェクトとしての作品です。ふたば富岡社屋と郡山社屋に共通する2,700×1,800サイズの縦ログパネルと張弦梁は、開放的なオフィス空間を実現しています。とくに前者においては、約6m×16m、高さ6mの空間にオフィスのメイン機能が集約され、諸室がそれらを取り囲んでおり、構法の特性を生かした平面計画となっています。道路側に地域交流室とデッキを設け、周辺との関係が生み出されている点も、復興の進展との呼応を感じさせます。パネル化によって、従来課題となっていた断熱性能などが向上され、施工期間が短縮されるなど、技術的なアプローチも評価を得た点であり、地域内の生産・施工の新たな広がりにもつながると期待されます。発災後、ログ仮設住宅を中心に、様々な復興に奔走してきた設計者らの歩みとともに、建築プロジェクトのそのものが地域にどんな価値を与え得るのかを提示した、東北建築賞特別賞に相応しい作品と評価されました。

第39回東北建築賞作品賞選考委員会

選考委員長	・大沼 正寛	東北工業大学ライフデザイン学部安全安心生活デザイン学科
委員	・高橋 典之	東北大学大学院工学研究科
	・有川 智	東北工業大学工学部建築学科
	・最知 正芳	東北工業大学工学部建築学科
	・坂口 大洋	仙台高等専門学校建築デザイン学科
	・増田 聡	東北大学大学院工学研究科
	・山岸 吉弘	日本大学工学部建築学科
	・安部 信行	八戸工業大学感性デザイン学部感性デザイン学科
	・鈴木 弘二	(株)鈴木弘人設計事務所
	・加藤 彰	(株)カトー建築設計事務所
	・飛ヶ谷潤一郎	東北大学大学院工学研究科

以上